

平成29年度  
公立大学法人首都大学東京業務実績報告書  
(案)

平成30年6月  
公立大学法人  
首都大学東京

# 大項目番号 1 教育内容及び教育 の成果等

(中期目標)

- 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、カリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成し、不断に見直す。
- 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、他大学や企業等のほか、特に東京都との連携を生かした教育を推進する等、多様な学修機会の確保に努める。
- 教育の質の保証と透明性確保のため、ディプロマ・ポリシーに基づき、卒業認定や成績評価に関する基準を明確にし、厳格な評価を行う。

中期計画	各年度における主な実績		東京都地方独立行政法人評価委員会の主な評価	
	年度	内容	評価	評定・説明
<p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>◇ 教育課程の見直し</p> <p>【1-01】①豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、引き続き分野横断的な学びを促す教育を実施するとともに、全部局におけるカリキュラムの再構築を【平成30年度】に行う。</p> <p>また、授業におけるTA等を【年間延べ1,000人以上配置】するとともに、アクティブ・ラーニングの導入を推進する。</p> <p>大学院においては、分野横断型(T字型)プログラムを導入する。</p> <p>【1-02】②外国語教育(専修)により「聞く、話す、読む、書く」の4技能を育成するとともに、全学共通科目及び専門科目(卒業要件ごと)において英語による授業を実施し、留学生の留学を促進する教育環境を構築する。</p> <p>また、1年次の外部英語試験受験率【96%以上】を維持し、学生の語学レベルを把握し、英語教育の改善に活用する。</p>	29	【1-xx】xxxx		【1-xx】xxxx
	30	【1-xx】xxxxx	X	
	31	【1-xx】xxx	X	【1-xx】xxxxx
	32	【1-xx】xx	X	【1-xx】xxxxx
		【1-xx】xx	X	【1-xx】xxxxx
<p>◇ 多様な学修機会の確保</p> <p>【1-03】③ 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、企業や都等との連携を生かしたインターンシップ等を実施するなど、多様な学修機会の確保に努める。</p> <p>【1-04】④ 産業技術大学院大学及び東京都立産業技術高等専門学校と連携し、海外交流プログラムを実施するなど多様な分野での相互交流を図るとともに、更なる連携を促進するために、法人や法人内の教育研究機関との共同研究課題の検証を踏まえつつ、新たな連携の在り方について検討する。</p>	34			

当該年度までの実績で中期計画の達成状況に係るものの確認欄

過去の評価結果、評定説明確認欄(平成29年度評価では、評定説明の記載はない)

※ここを見れば、該当年度までの業務実績の要約を把握することができる。  
※当該年度の業務実績の詳細は小項目を参照。  
※毎年度書き溜めることで、5年目、7年目の際に中期における業務実績を記載する際の主な記載内容となる。

各年度における主な取組・成果・効果と中期計画の進捗・達成状況が分かるような記載内容とする

I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき  
 1 教育に関する目標を達成するための措置  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置  
 ◇ 教育課程の見直し

【共通】

- ・中期計画の◇の単位(第二期中期目標期間の評価の単位)では、1~3枚程度に収める。
- ・大項目全体でも、最大でも5~6枚程度に収める。
- 小項目の報告は、網羅的に記載するのではなく、計画に記載されたものや評価委員会や都民にアピールすべきことに絞る。

① 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、引き続き分野横断的な学びを促す教育を実施するとともに、全部局におけるカリキュラムの再構築を【平成30年度】に行う。また、授業におけるTA等を【年間延べ1,000人以上配置】するとともに、アクティブ・ラーニングの導入を推進する。大学院において、分野横断型(T字型)プログラムを導入する。

中期目標中の重点数値目標(KP1)には下線を引く

業務実績

自己評価

No.	H29年度計画	業務実績	自己評価
1-01	<p>(1)【新規】平成30年度の教育研究組織再編成に向けて策定したカリキュラムポリシーを具体化・可視化して、共有するために、学士課程においては全学共通科目及び専門科目のカリキュラムマップを、大学院課程においてはカリキュラムマップを合わせて策定する。</p> <p>(2)【拡充】集計・分析手法を検討する。</p> <p>(3)【新規】大学院の分野横断型プログラムについては、平成30年度にパイロットプログラムを導入するために、履修及び修了等に関する手続方法の決定、関係諸規定の整備、広報資料の作成等に取り組む。</p> <p>(4)【拡充】学生の能動的学修の促進や多様な学修機会を提供に資する取組をより効果的に実施できるよう、首都大学東京教育改革推進事業の支援内容を見直し、TAの活用、大学院の分野横断型プログラムの導入等を含めアクティブ・ラーニングの推進に取り組む。</p> <p>(5)【新規】アクティブ・ラーニングの推進に向けて、教員を対象としたアクティブ・ラーニング導入状況等のアンケートを実施する。</p>	<p>【計画どおり実施】</p> <p>(1)カリキュラムポリシーの具体化及び学生への周知        &lt;取組内容&gt;        ・カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを各学部ごとアンケート等により、学生の意見を取り入れつつ作成し、ホームページで公開した。        ・各学生の活用を図るため、紙媒体で授業等で配布した。        ・教育課程の編成、教育内容・方法の実施及び学修成果の評価になったことで、学生にとっては〇〇、教員にとっては△△といったメリットが見込める。</p> <p>&lt;成果・効果&gt;        ・応募者が◎◎人増加するなど、学生は、        &lt;今後の課題・方向性等&gt;        ・事業実施後の効果検証及び学内へ        ※首都大学教育改革推進事業とは～</p> <p>(2)TAの配置数の拡充に向けた取組方法の検討        ・〇人であったTAの</p> <p>(3)大学院分野横断型パイロットプログラムの諸規定の整備・広報企画        ・【特記事項1-01参照】</p> <p>(4)首都大学東京教育改革推進事業の見直し        &lt;取組内容&gt;        ・教育改革推進事業について、△△        ・◆◆を達成するため、学長指定課題の学修        【URL:https://www.~~~~.jp】        ※首都大学東京教育改革推進事業とは、別紙1-01</p> <p>(5)アクティブラーニング導入状況のアンケートの実施        ・【特記事項1-01参照】</p>	<p>B</p>

・例年行っているものは【継続】  
 ・拡充したものは【拡充】  
 ・新たなものは【新規】

・積極的に取り組んだ事項や計画を上回って成果が出たと自己評価する事項には、下線を引く  
 ・成果、効果が出た場合は、その内容を明記  
 ・中期計画達成に向け、課題がある場合、今後の課題や方向性等を記載  
 ※順調に取組・成果を挙げている事項については、記載不要

・数値目標で管理する項目の記述部分は最小限とする(取組、成果等で特に工夫したものを除く)  
 ・経年で数値比較が可能な場合は、図表やグラフを用いて比較しやすいよう工夫して記載

TA配置実績

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30 (予定)
TA	60	62	64	66	68	70	100
SA	10	11	12	13	14	15	20

(人)

・業務実績報告書の他に写真、パンフレット、規程等を別紙で示す、あるいはホームページ(URLを記載)などの資料がある場合は、取組、成果・効果等の説明に使用することができる。  
 ※URLはハイパーリンクとするなど、工夫し、URLのリンク切れ等に注意すること。

アクティブラーニング  
アンケート結果



・優れた取組、特色のある取組や改善を要する取組など、特記すべき事項については、特記事項欄に全て記載し、小項目欄には、【特記事項1-◆◆参照】とのみ記載する。

中期計画

②外国語教育室(仮称)により「聞く、話す、読む、書く」の4技能を育成する英語教育プログラムを開発するとともに、全学共通科目及び専門科目(専門科目においては卒業要件ごと)において英語による授業を設置するなど、日本人学生の留学を促進する教育環境を充実させる。  
また、1年次の外部英語試験受験率【96%以上】を維持し、学生の語学レベルを把握し、英語教育の改善に活用する。

【●年度達成】

・中期計画を達成した場合、達成年度を中期計画の下に記載

No.	H29年度計画	業務実績	自己評価
1-02	<p>(1)【拡充】英語による授業数増加に向け検討を開始し、その検討結果を取りまとめ、次年度以降の取組へつなげる。</p> <p>(2)【継続】英語教育の改善に資するため、TOEIC 受験率96%を維持し、学生の語学レベル把握に努める。</p>	<p>【計画通り実施した】</p> <p>(1) 英語授業数増加に向けた検討 【参照項目:1-44】</p> <p>(2) TOEIC受験率の維持 【参照項目:1-44】</p>	B

・業務実績報告書中で、主な取組等を記載した部分がある場合は、【参照項目:1-●●】とのみ記載

中期計画  
◇多様な学修機会の確保  
③ 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、企業や都等との連携を生かしたインターンシップ等を実施するなど、多様な学修機会の確保に努める。

1-03	<p>(1)【拡充】事前学習等の改善、新規実習先の開拓等実習先の充実、実習内容の充実、情報発信の強化を図り、「現場体験型インターンシップ」履修申請者の増加につなげる。</p> <p>(2)【新規】日本経済団体連合会から提供を受けているインターンシップについて、提供先各社へ希望学生を派遣する。また、平成30年度実施のインターンシップから、制度の在り方を見直し、新たなインターンシップ制度を構築する。</p>	<p>【計画の実施状況が当初予定を下回った】</p> <p>&lt;取組事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生の事前学習方法にe-ラーニングを取り入れた。</li> <li>・担当教員が新規の実習企業の開拓のため、◎社訪問した。</li> <li>・紙媒体での周知をやめ、公式ツイッター等のSNSを活用した周知方法に転換した。</li> </ul> <p>&lt;成果・効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場体験型インターンシップの希望学生が当初の見込みよりも集まらず、翌年度以降の受入を断られる企業が○社発生した。</li> <li>・新規の実習先の開拓が当初○件見込んでいたところ、○件に留まった。</li> <li>・学部1、2年生が職業体験を通して職業倫理感を養う「現場体験型インターンシップ」の履修申請者が前年度から大幅に減少した。(H28年度○人⇒H29年度○人)</li> </ul> <p>&lt;今後の課題・方向性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への実習内容の周知方法の検討</li> <li>・H30年度以降、対面での接遇研修を取り入れることを決定した</li> </ul> <p>&lt;取組事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受入候補企業10社からのアドバイスに基づき、経済団体連合会インターンシップ制度(仮称)を構築した。(別紙1-03)</li> </ul> <p>&lt;今後の課題等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への制度周知と学生のニーズ把握に課題がある。</li> </ul>	C
------	---	---	---

計画に記載した取組等の実施状況は、簡潔に記載する。

事業年度内に課題の共通認識や次年度以降方向性等が決まっていれば、記載

新規の取組などで成果・効果がまだ出ていないものは、成果効果を記載することを要しない

中期計画番号1-01 (3) 大学院の分野横断型プログラム

- Xxx
- Xxx
- Xxx
- Xxx

中期計画番号 1-● (◎) Xxx

- Xxx